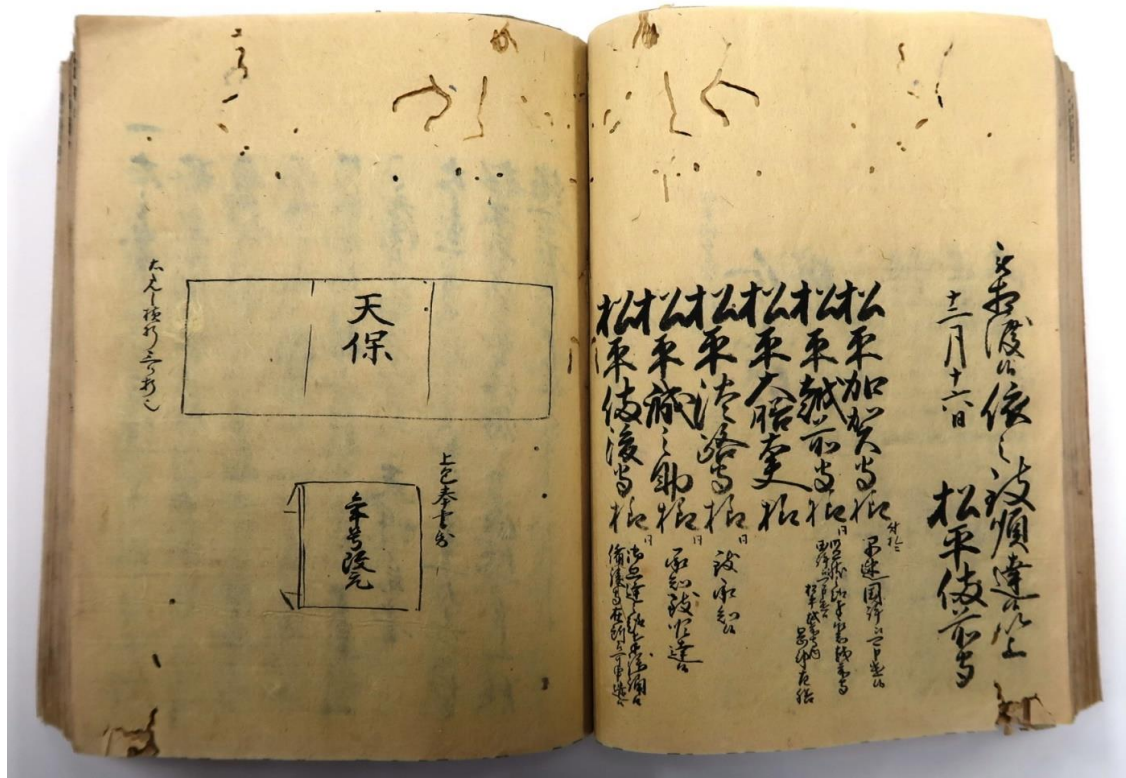


改元の伝わり方～萩藩の場合～



「公儀事諸控」より「文政之年号天保と改元之事」(41公儀事19<14の13>)

▽江戸時代(1603～1867年)には、「慶長」から「慶応」まで36の元号が用いられました。江戸時代最初の改元は、「慶長」が「元和」へ改元された1615年。江戸時代最後の元号「慶応」は、1868年(慶応4年)9月、「明治」へと改元されました。

▽当館所蔵「公儀事諸控」(萩藩の記録)には、江戸時代の改元に関する記事が多数あり、幕府から各大家へどのように改元が伝えられたのか、そのあり方を知ることができます。

▽また、江戸時代、萩藩の村役人を務めた家に残された文書には、改元が藩内の村々にどのように伝えられたのかを示すものがあります。

▽今月は、萩藩を事例に、江戸時代、改元の情報がいかにどのように伝えられたのか見てみたいと思います。

改元^{カイン}の伝わり方 ～萩藩の場合～

1. 改元の実施

江戸時代の改元には、①天皇代始改元（天皇代替わりに伴う改元）、②革命革命改元（干支が辛酉・甲子の年に行う改元）、③変異・災異改元（京・江戸での大地震や大火を契機とする改元）、などがありました。

2. 新元号の決定

朝廷と幕府の間で改元の方針が決まると、朝廷が複数の元号案を幕府に示し、それに対する幕府の意見を踏まえつつ、朝廷が新元号を決定しました。新元号は、朝廷から京都所司代を通じて幕府に伝えられました。

3. 江戸城での大名への申し渡し

新元号が幕府に伝えられると、幕府は江戸にいる諸大名に江戸城への登城（惣出仕）を命じ、城中で老中が改元実施を諸大名へ伝えました。

4. 大名への周知

3の後、幕府大目付の指示により、同じ家格の大名家で構成されるグループ（「組合」）ごとに「^{どうせきふれ かいじょう}同席触廻状」と呼ばれる廻状が回り、老中から改元の申し渡しがあったこと、および新元号の文字が伝えられました。当主が在国中で江戸城での申し渡しに臨席できなかった大名家は、江戸の留守居役がこの廻状を受け取り、改元実施を正式に知りました。

5. 江戸から国許へ

各大名は早飛脚で国許へ改元実施を伝えました。萩藩の場合、12～14日ほどで萩城に連絡が届いています。参勤交代に要した日数(30日ほど)と比べかなりのハイスピードでした。

6. 領内への周知

連絡が届くと、萩藩の場合、当職所が主幹となり、各支藩、藩内の家臣・領民へ改元を通知しました。領民には、当職所→郡奉行→各代官→大庄屋→各村庄屋→村内畔頭というルートで改元が伝えられていきます。江戸城での申し渡しから1か月ほどで各村に情報が伝わりました。ただし、藩の公式な通達以前に改元の情報を得ていたひとたちも多かったでしょう。

天保改元を伝える同席触廻状と新元号の書付

41 公儀事 19(14-13)

1830年12月16日、江戸城で老中が諸大名へ「天保」への改元を申し渡します。こののち、萩藩主が属する大名グループ(「組合」)に回覧された「同席触廻状」の写です。改元を伝える廻状には、「年号改元」と書かれた包紙が添付されています。この中には「天保」と記された書付があり、新元号の文字を「見て」知ることができました。

宝永改元時、江戸城中で順覧される新元号

41 公儀事 4(18-18)

1704年3月28日、江戸城において、老中が諸大名へ「元禄」から「宝永」への改元を申し渡しました。そののち、新元号「宝永」の文字を記した「高檀紙(高級楮紙)」が「小広蓋(お盆)」に載って廻され、大名たちがそれを順番に見たといいます。江戸時代前半期には、このような形で新元号の文字が伝えられるケースもありました。

萩藩各地への改元情報の伝わり方

佐川家文書(平生町)9「大公儀其外御触書」

1801年2月13日、江戸城で「寛政」から「享和」への改元が申し渡されます。当時佐合島(現平生町)の畔頭であった佐川家の文書によれば、国許に届いた改元の知らせは、28日に当職所から郡奉行、代官へ伝達され、3月上旬に代官から大庄屋、10日に大庄屋から上関島々庄屋へ伝えられました。ほどなく佐合島へも伝わったでしょう。江戸城での申し渡し後、萩藩各地に改元が周知されるのに約一か月を要したことを示す史料です。

【釈文】

今日致登

城候処、別紙之通從京都

被仰進年号改元被

(老中松平惠任)

仰出候旨、松平周防守殿被仰渡候、尤

此段各様江致通達候様

大目付織田信濃守を以書付

被相渡候、依之致順達候、以上

十二月十六日

(福岡藩主黒田吉光)

加賀藩主前田吉泰

付紙一 早速国許江可申達候

松平加賀守様

同 御廻伏之趣奉知、越前守

福井藩主松平吉承

同 松平越前守内 岡部左膳

松平越前守様

同 致承知候

松平大膳大夫様

同 致承知順達候

松平淡路守様

同 御廻達之趣奉持請候

松平誠之助様

備後守在所江可申達候

松平備後守様

同 備後守在所江可申達候

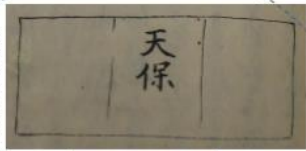
廻文グループの代表者

廻文を受け取った各大家
家臣(留守居役)のコメント
=「承知しました」「国許に
伝えます」など

【おおまかな意味】

今日、(江戸城に)登城したところ、別紙
のとおり京都(朝廷)から通知された年号改
元(天保への改元)について、將軍様がこれ
を仰せになったと老中松平周防守様が(諸
大名へ)仰せ渡されました。
このことを同席の大名家に通達するよ
うにと大目付織田信濃守様から指示があり
ました。よって順達します。

廻文グループ
のメンバー



右はなし横折 三ツ折也



上包裏書紙

廻文に添付され
た新元号の書付

【釈文】

廿七 年号改元之事

一元禄十七申之三月廿八日

殿様例之通被遊御登城候処、

御用之儀候条、来ル晦日四ツ時

已前可有御登城之旨諸御

大名方御一同二大御目付仙石

伯耆守殿被仰渡之候、依之三月

晦日被成御登城、於御白書院

御老中御列座之上稲葉丹後守殿

被仰渡候者、去年地震付而

年号改元、宝永二被仰付之旨

被仰渡之候、右之年号文字を

高檀紙二書付之、小広蓋二入、

順覽被仰付之由候事

【大まかな意味】

元禄十七年(一七〇四)三月二十八日、殿様
(四代萩藩主毛利吉広)が江戸城に登城され
たところ、大目付仙石伯耆守様より「来る晦
日四ツ時までに諸大名は江戸城に登城するよ
うに」との仰せ渡しがあった。そこで、三月
晦日に殿様が登城されると、江戸城白書院に
おいて、幕府老中様列座の中、老中稲葉丹後
守様より、「去年大地震があったため改元し、
新元号を宝永とする」との申し渡しがあった。
そのうち、高檀紙に新元号を記した書付が小
広蓋に載せられ、それが大名間で巡覧された
ということだ。